平成29年度　　事　業　報　告　書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人　ミャンマー　ファミリー・クリニックと菜園の会

1　事業の成果

平成24年6月特定非営利活動法人として設立されたこの会は「ミャンマーの無医村に、医療・菜園を通じ保健衛生・栄養などを学ぶ機会を提供し、彼ら自身が生活環境の課題を解決し、命を育む未来を描ける社会の実現をサポートする」ことを目標に活動している。ミャンマーにおいて選定した活動地エーヤワディ州ミャウンミャタウンシップの12の村で平成27年1月から巡回診療を開始し現在は15の村へ活動は拡大している。平成29年4月1日から平成30年3月末までに69回、延べ2619人の受診者を得、30人の病人を関係医療施設へ搬送した。この間には巡回診療車の故障などで約2か月間計5回しか巡回診療を行えない時期もあった。また、保健衛生指導（ヘルストーク）というバランスの良い栄養をとる大切さや手洗いなどの保健衛生啓発活動を巡回診療の合間、及び週1回行う住民との話し合いで行い約3353人の参加者を得ることができた。話す保健衛生の内容は、熱中症やテング熱など季節により発生の高い疾患の予防から家族計画、手洗いの大切さ、トイレにフタをする大切さなど多岐に渡り、住民に予防医学の重要性を理解する一役を担った。平成27年12月に地域保健推進員の育成を5日間行い6名の推進員が誕生し、その後MFCGのメンバーの一員として彼ら自身が保健衛生の大切さを住民に広めている。が、今年度は育成員の雇用が困難であったため育成コースは行えなかった。菜園に関して、15の村のうちモデルケースとなる1つの村において8月に専門家と提携して家庭菜園レベルで有機野菜の栽培の方法について3日間の講義とその2週間後の3日間の実践を行った。参加者は5人であったが、他の村からも参加希望がおり、面接後に参加して頂いた。また、ヤンゴンにあるJICAの研修で活動の評価の講座をスタッフが受講し、その成果として巡回診療している3つの村を選定し、評価を行った結果、手洗いやコメの研ぎ汁を飲むなどの知識と実践が約30～40%上昇し、効果を得た。平成30年1月からミャウンミャ病院からの要望があり、地域の助産師の知識と技術の向上に寄与する一旦として、妊産婦の産前健診の受診率の改善のための事業を連携して計画している。また、ミャンマーと日本の交流を深め、かつ支援者の輪を拡大するために定期的な講演会やミャンマー人と日本人との親睦会などを行なった。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

事業名	事　業　内　容	実　施 日　時	実　施 場　所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
A)国際協力および海外事情に関する情報収集ならびに調査研究と報告事業	1　巡回診療(移動クリニック)ならびにヘルストーク（保健衛生）啓発活動	平成29年4月1日－平成30年3月31日 計69回	ミャンマーエーヤワディ管区ミャウンミャタウンシップン	4人	2619人（MC） 3353人（HE）	863

	２．活動報告会 （MFCG 参加イベント，MFCG スタデイーツアー説明会など）	平成 29 年 12 月 17 日～24 日	スタデーツアー	約 10 人	65 人	
		平成 30 年 3 月 24 日	MFCG 報告会	約 15 人	約 90 人	
		平成 29 年 8 月 25 日	MFF 主催イベント参加	約 3 人	不特定	
		平成 30 年 2 月 25 日	社会起業大学イベント参加	約 3 人	不特定	
		適宜				
	３．依頼講演（支援者との交流会など）	平成29年11月 24 日	ミャンマー料理を楽しむ会	10 人	約 20 人	
		他計 24 回				
	４.活動啓発活動（参加イベント・インタビュー雑誌掲載など）	平成29年11月 8 日	NHK 現地取材（サイド バイ サイド）	約 10 人	不特定	
		平成 29 年奇数号掲載寄稿文 計 6 回	鎌倉朝日新聞	1 人	不特定	
		平成 29 年 7 月 2 日	埼玉成恵病院（埼玉東松山）	1 人	約 600 人	
		計 10 回				

B)社会的に困難な状況にある人々に対する医療を通じた問題解決支援事業	1　巡回診療(移動クリニック)ならびにヘルストーク（保健衛生）啓発活動　助産師ろ連携した妊産婦産前健診受診率向上事業	平成 29 年 4 月 1 日－平成 30 年 3 月 31 日	ミャンマーエーヤワディ州ミャウンミャタウンシップ	約 4～6 人	2619 人（MC）3353 人（HE）	5789
C)災害その他の緊急事態に対する救護、復興支援および防災事業	1、水害被害への緊急物資支援	該当なし				0
D)食料自給に関する技術支援ならびに共同生産事業	1　専門家と連携した有機作物栽培の講習と実践	平成 29 年 8 月 8 日－10 日（講習）8 月 22 日－24 日（実習）	ミャンマーエーヤワディ州ミャウンミャタウンシップト-イ村	3 人	5 人	270
E)生活向上をめざす人々が作る生産物の普及または紹介を通じた雇用創	1　専門家との連携した有機作物栽培の講習と実践	同上	同上	3 人	5 人	D)に含む

（2）その他の事業

事業名	事　業　内　容	実　施 日　時	実　施 場　所	従事者の人数	事業費の金額(千円)

平成 29 年度　事業報告書

＜報告期間＞

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

事業の成果

1.　国際協力および海外事情に関する情報収集ならびに調査研究と報告事業

①　ミャンマー事業として

１)前年の 12 の村を巡回する移動クリニックから巡回診療を 15 の村へ拡大しました。この 1 年間のうち 8 月 9 月は巡回診療車の故障・修理のため 2 か月間で計 5 回しか巡回診療を行うことが出来ませんでした。それにもかかわらず、今年度は 69 回行い（前年度 41 回）2619 人の受診者を得ることができました。この 2619 人のうち結核疑い 4 人、マラリア疑い 1 人、そして Primary Health Care の受診者は 1283 人でした。また、医療従事者への搬送者は 30 人にのぼりました。

2）さらにヘルストークを手洗い啓発活動、歯磨き交換プロジェクトなど 13 のトピックで計 43 回行い、延べ 3,353 人の参加者を得ました。

3）今年度、活動をおこなっている 15 の村から 3 つの村を選定し、住民から MFCG の活動の評価をしてもらうため、計 6 回 Evaluation Sheets を行いました。対象者は 59 人です。（別紙参照）

その結果、MFCG のヘルストークの講座を受ける前に米の研ぎ汁を飲んでいないが、知識を得てから飲み始めた住民が約 40%UP。手洗の知識と共に実践をしている住民が平均、39%UP。トイレなどの環境衛生を整えることの必要性を理解した住民は 25%UP。さらに歯ブラシの実践者は約 32%UP しています。

※巡回診療は雇用していたミャンマー人医師 Dr. Yin Su Khine がご自分の次の夢に向かって 2018 年 2 月 28 日に MFCG を退職しました。その後、経験豊富な医師の雇用を進めていましたが、ミャウンミャ県立病院勤務の Dr.　Zin Mar Myint が病院を退職し当会の 1 員になり、戦力になってくれました。さらに 5 月から新規にカレン族の Noren San San Moe という正規看護師さんを雇用しました。彼女はポーカレン語もサコーカレン語も話せるため、巡回している村の人たちとコミュニケーションがとれ関係が一層良くなりました。しかし、8 月 9 月は巡回診療車の故障が生じ、ヤンゴン

での修理が必要と診断され、修理に約 1 か月近くかかってしまいました。

4)「CHP」の人材育成に関して、新に別の村で第 2 回目を実地できていません。

5）JICA　Evaluation Training（平成 29 年 6 月 25 日～27 日）　JICA 事務所にて 3 日間に渡り、Evaluation Training が行われ、MFCG から　Dr.Yin Su Khaing と Noren San San Maw が参加しました。（内容は別紙参照）　このトレーニングの成果を 1-①-１）で行いました。

6) ミャウンミャ地区の助産師との妊産婦産前健診受診率の向上
平成 30 年 1 月からミャウンミャ県立病院の要望により、妊産婦産前健診受診率向上に寄与する事業を開始しました。　この目的は、WHO 推奨の 8 回産前健診率（発展途上国は 4 回）を同地区では 40%にも満たしていない事実の改善です。巡回診療を行っている 15 の村のうち 2 つの村を選定し、モデル村とし、毎月 15 日を産前健診日に特化し、保健衛生の必要性を伝えるヘルストークを開催する予定です。　同時に、ビタミン B1 と鉄分の豊富な強化米を提供し、妊婦と胎児の健康を守ることに寄与しています。連携する助産師は紙芝居を作成し、参加した妊産婦の理解を深めることに活用する計画を立てています。この計画は平成 30 年 8 月から順次行う予定です。

MFCG は
②　国内事業として
1) 活動報告会
毎年 3 月第 4 土曜日に開催しています。今年度は MFCG 活動報告会を東京金融取引所にて開催しました。この開催場所は MFCG をご支援してくださいます、東京金融取引所さまのご厚意により実現したものです。さらに、今回は広報するためのチラシ作成もご支援を頂きました。今年度の報告会は前年度の参加者のアンケートから午前の部と午後の部の 2 部制で行いました。これにより、参加者された方が午前の部では 43 人（懇親会 31 人）、午後の部は 46 人（懇親会参加 29 人）と盛況のうちに終了しました。　また平成 29 年度は依頼講演も、計 23 回ありました。さらにその他に 8 月 25 日(土)の MFF のイベント参加や、9 月 30 日(土)10 月 1 日(日)に行われた国際グローバルフェスタ（お台場）にも参加し、MFCG の認知度を高めることが出来ました。11 月 24 日(金)にはミャンマーカレーを楽しむ会を主催し、会場で NHK の DVD を放映して MFCG の活動の現場の状況を理解する機会を得ることが出来た。
7 月 2 日(日)には　第 4 回成恵会音楽部チャリティー演奏会も行われ、約 600 人の方が参加されました。　徐々に MFCG の活動が広まっていきました。この時

に 2020 年のオリンピック・パラリンピックでミャンマーの選手のホストタウンであります鶴ヶ島市長も参加してくださいました。　今後、このご縁をさらなる発展に繋げたいと思っています。

最期に　今年度は 9 月に NHK　World の現地取材が（　番組名：サイド　バイサイド　放送題名：　Creative Healthy Villages Together ~Myanmar~ ）あり、その国際放送が 11 月 8 日に行われました。この放送は、世界 121 カ国に英語でされています。

2. 社会的に困難な状況にある人々に対する医療を通じた問題解決支援事業

① 平成 28 年 1 月 28 日から巡回診療（移動クリニック）を開始し、12 の村を 2 ヶ月半で一巡するペースとし、進めていましたが、今年度ミャウンミャ県立病院からの要請もあり 15 の村へ拡大しました。村の住民は季節移動労働者がほとんどのため女性が多く診療を待つ時間を利用して、手洗い方法や栄養のバランスの話（ヘルストークといいます。）をして保健衛生啓発活動を頻回に行いました。なぜなら今までに彼らにはそのような知識を得る機会がなかったからです。
さらに、男性も受診してもらう工夫として、テントを購入。村の中心部でテントによる巡回診療を開始したところ、外からみえるため、男性受診者数は平均 5 人～10 人増加しました。また診察後、MFCG は毎回、受診者に内服薬を手渡すときには、目の前で実際に内服して頂き、お母さんたちには薬剤の服用指導も併せて行っています。今年度は新規雇用の Noren　San San　Maw がポーカレン語及びサコーカレン語を話せるため、今まで以上によりスムーズなコミュニケーションを行うことが出来ました。

② クッキングデモンストレーション
平成 29 年 9 月 15 日にミョーハンという村の住民 129 人の参加者と共にが脚気予防のために米の研ぎ汁を飲むというデモンストレーションを行いました。ミャンマーでは米を炊くときに研ぎ汁を拭きこぼすことが普通です。そのため、米の研ぎ汁に含まれているビタミン B1 の摂取が不足し、これが脚気を引き起こす原因の 1 つです。5 つずつ計 10 個のおかまを用意し、伝統的なミャンマー式の米を研ぐグループと吹きこぼしを行わないグループ（スチームライス）に分け、味の違いが無いことや炊き方が簡単であることを実際に行ってみました。そのデモンストレーション後に 4 人の家族がスチームライスに変更しています。

③　地域健康推進員の育成（CHP）は　残念ながら　HE　Officer の指導員の確保が難しくおこなえませんでした。平成 30 年 7 月 16 日から　新規 Health

Assistant(HA)を雇用予定です。7 月以降に各村に CHP の育成を広めていきたいと考えています。

３．災害その他の緊急事態に対する救援、復興支援および防災事業

今年度は該当事業なし

４．食料自給に関する技術支援ならびに共同生産事業

移動クリニックの中と週 1 回行う「ビレッジミーティング」において、野菜を食べることの必要性がどのように理解されているのか、家庭菜園作りへの関心がどの程度あるのか、菜園を始めるにあったての障害は何か、などを話し合いました。そこで得た結果からまずは家庭菜園つくりから始めることを考え、平成 29 年 8 月にト-イ村で講義 3 日間、実習 3 日間の有機野菜栽培の講習を専門家と連携して行いました。

4 人の希望者があり、その他に他の村からも参加希望者がおり、　ミャウンミャの事務所で面接を行い合計 5 人の受講生で行いました。平成 29 年 8 月 8 日―10 日に講義を、8 月 22 日―24 日に実習を行いました。　講師は、シャン州から現役の地球市民の会の講師を 2 人招聘しました。

実習では実際に木酢酸やぼかしを作成し、インゲンなどの栽培を実践。ト-イ村は土地が肥えていないため中々作物が育ちにくい環境であることが判明しました。しかし、それでも、参加者は自力や村長さんと協働で土地を開拓し、土を掘り起こし、挑戦しました。特に、2 人の子どもがいる参加者は安定した収入が無いため、この菜園により家族に野菜を食べさせたいと意欲的に行っており、彼の菜園は 12 月にオクラなどが育ちました。

次回平成 30 年 7 月にはカンコーズ村の既存の受講生との交流会を行い、お互いの問題点や解決方などの交換会を開催する予定です。

5. 生活向上をめざす人々が作る生産物の普及または紹介を通じた雇用算出事業

4.の事業から有機野菜の栽培、および販売まで考えたときに、平成 28 年度は受講者の 1 部の人において産物である有機野菜の質、量は 3 倍以上に増え、収入増加に寄与しました。また、近隣の村からも栽培された作物の購入があり、他の村への効果波及も考えられるようになりました。しかし、平均的な収入源として考えたときに 4 月 5 月の乾季の水不足など、作物栽培に影響を及ぼす事項があり、まだまだ安定した収入は得られないのが現実です。これを　ミャウンミャの町で販売することを計画しており、そのため町の中のレストランの選定、及び、カンコーズ村の栽培者のキャッシュフローなどを理解してもらう為、出納帳の記録を 2 か月間してもらっているところです。

Evaluation Report

Aim/ Purpose

1. to know the basic health education of the villagers in project villages
2. to know the effectiveness of MFCG activities
3. to get comments and advises about MFCG activities from villagers how to improve MFCG activities

Target villages- 3 villages

1. Moe Kyoe Pan Village
2. Kant Kaw Su Village
3. Htaw Yee Village

Due to manpower and time limitations, MFCG cannot do feedback activities in all 15 projected villages. MFCG selected 3 villages that MFCG did organic agricultural training and so MFCG can get feedback for all MFCG activities.

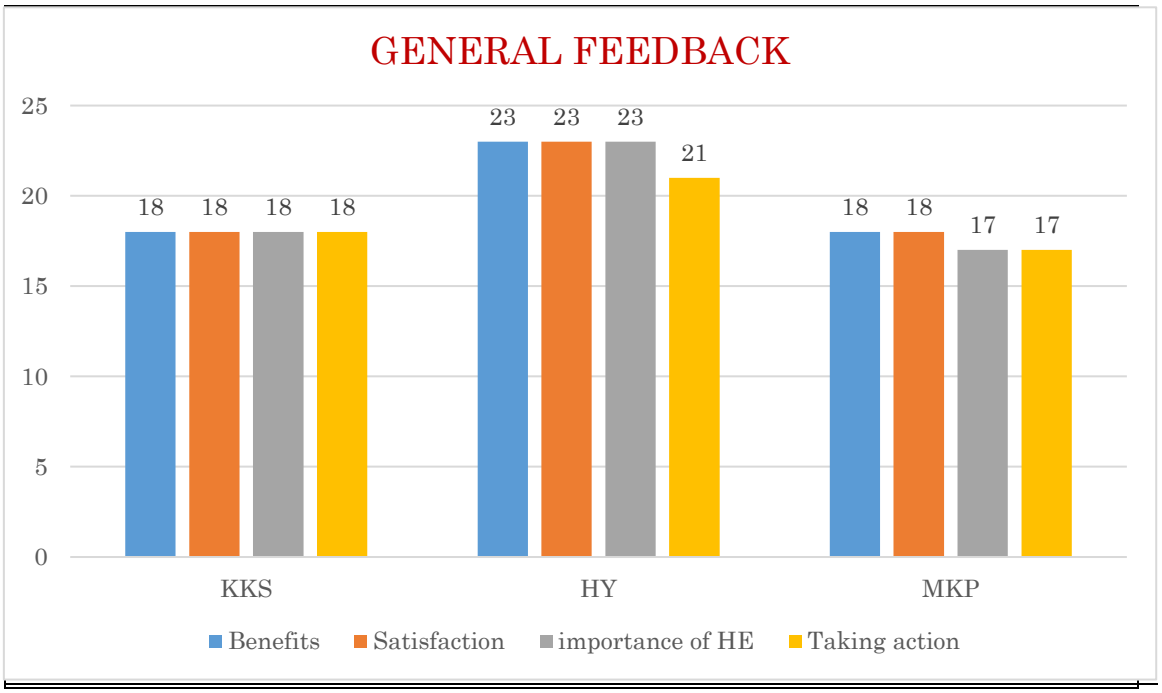
Target sample size - 50 participants for each village.

Although , the target sample size is 50, MFCG cannot reach to collect the target sample size due to the following difficulties.

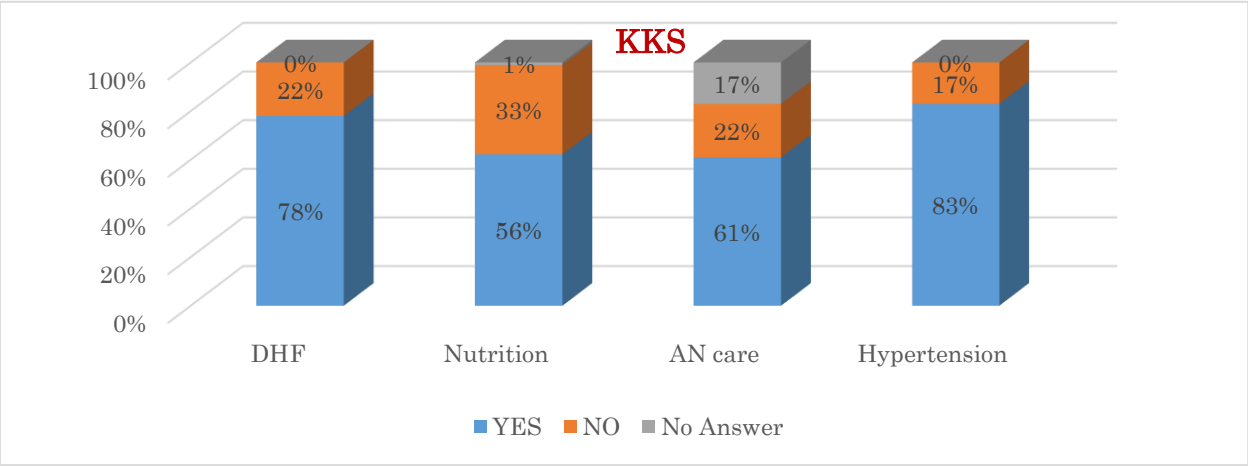
Difficulties

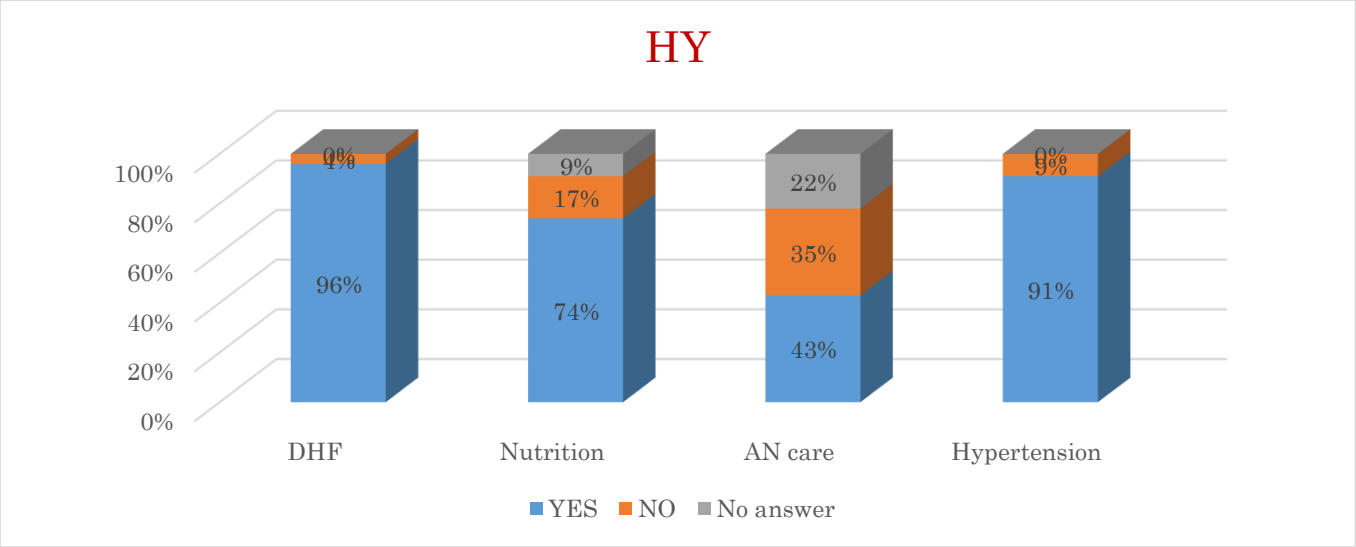
- It isvery difficult to collect villagers in HE days.
- Some villagers cannot read and write.
- Some villagers do not have enough education skills to understand the questions.
- Some villagers do not want to answer the feedback question sheets.

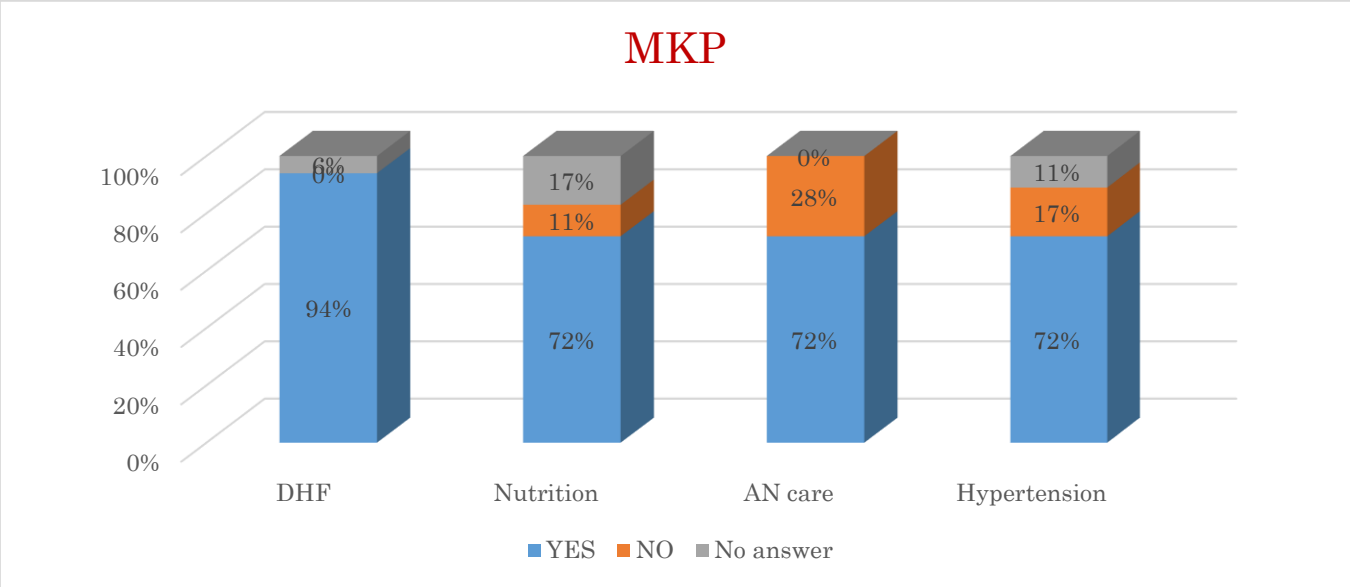
Date	Village	Number of Participants
4. 8. 17	Kant Kaw Su	18
18. 8. 17	Htaw Yee	23
11. 8.17	Moe Kyoe Pan	5
19. 1. 18	Moe Kyoe Pan	7
22. 2. 18	Moe Kyoe Pan	4
28. 3. 18	Moe Kyoe Pan	2



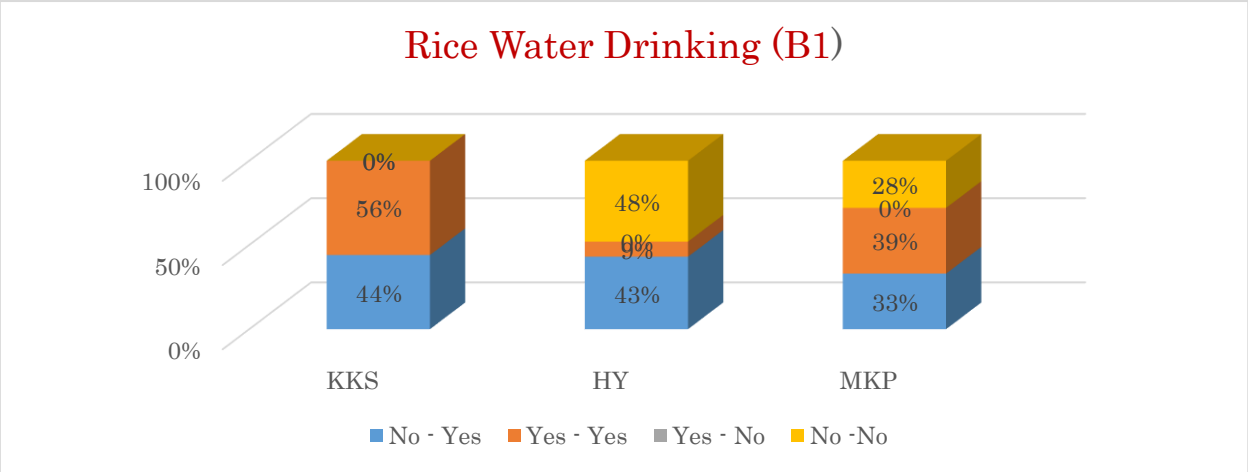
TAKING ACTION				
No	**Topics**	**KKS**	**HY**	**MKP**
1	Hand washing	5	5	7
2	Toilet	3	1	6
3	Deworming	1	2	-
4	Safe food	1	-	2
5	Toothbrushing	-	2	4
6	Balanced diet	2	1	1
7	Rice Water drinking (B1)	3	-	-
8	DHF	8	6	-
9	Environmental sanitation	9	2	1
10	Contraception	-	1	-
11	Hypertension	-	3	-
12	Share knowledge	-	-	1

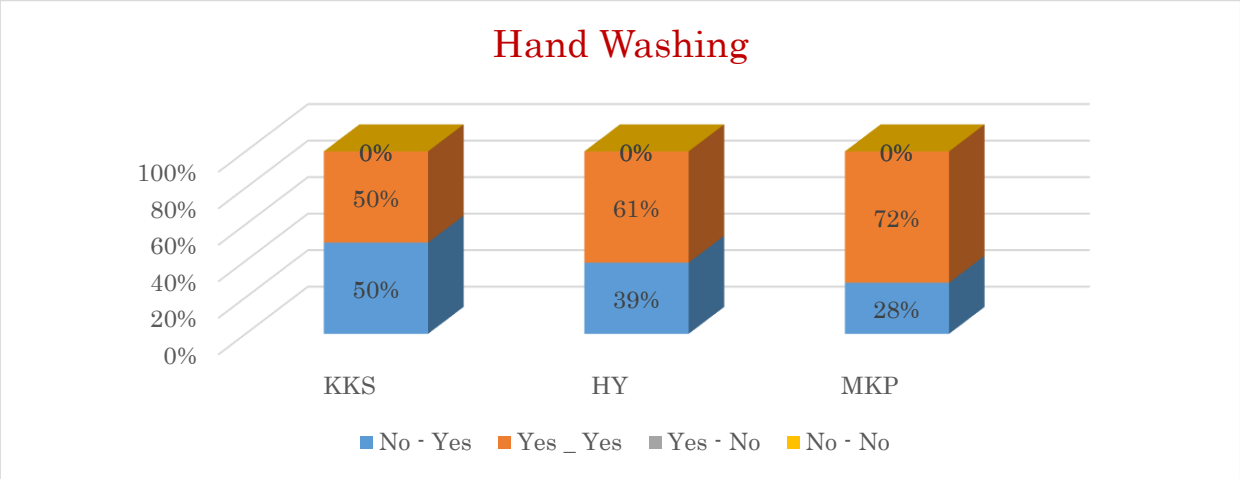

KKS
100%
80%
60%
40%
20%
0%
0%
22%
78%
1%
33%
56%
17%
22%
61%
0%
17%
83%
DHF
Nutrition
AN care
Hypertension
YES
NO
No Answer

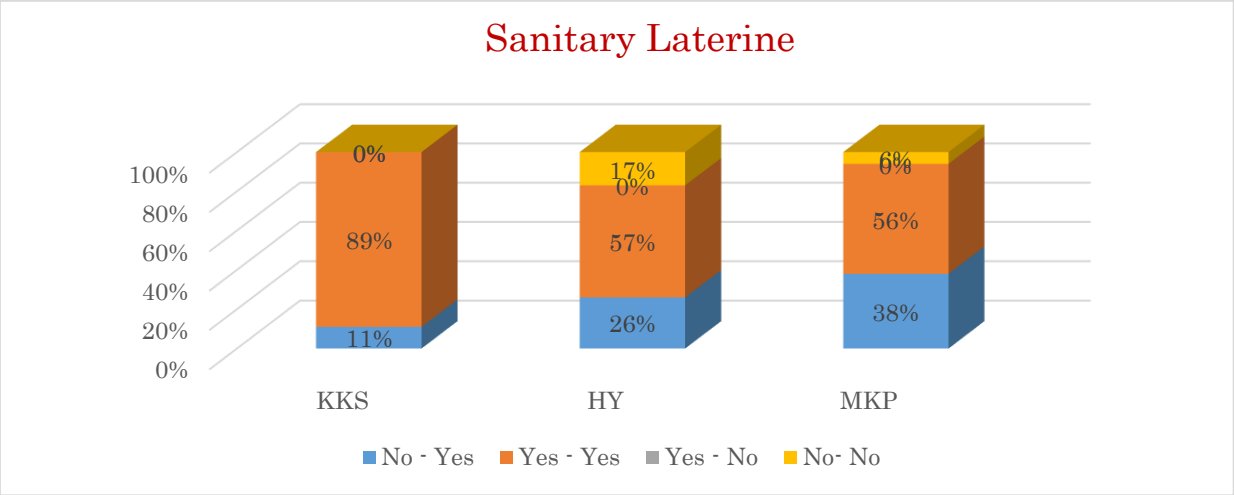

HY
100%
80%
60%
40%
20%
0%
0%
4%
96%
9%
17%
74%
22%
35%
43%
0%
9%
91%
DHF
Nutrition
AN care
Hypertension
YES
NO
No answer

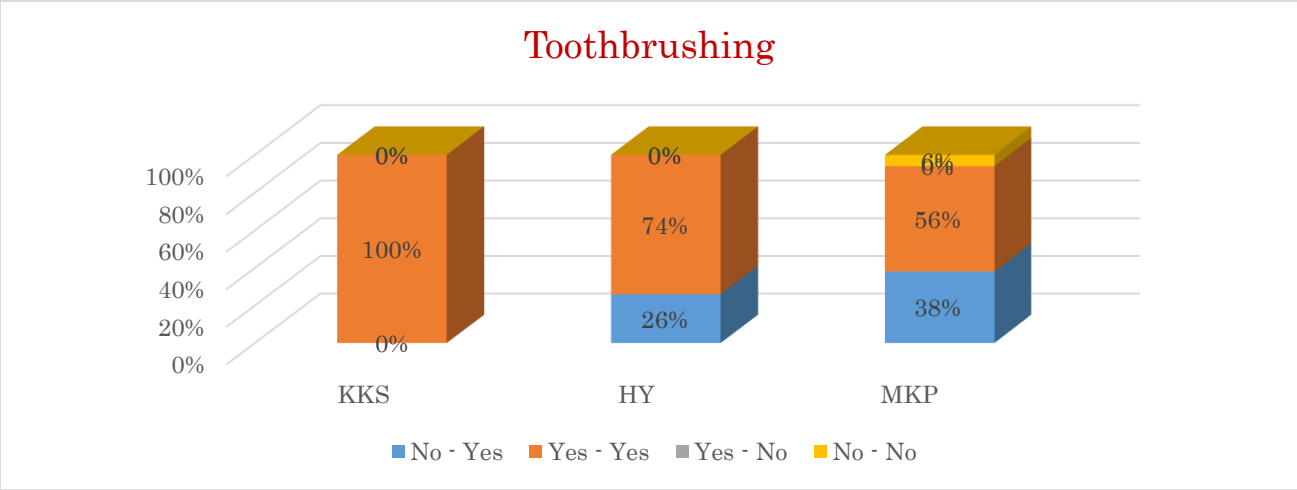


Before and After Comparison









Action Taken for DHF Prevention

	KKS	HY	MKP
Cover Pot	50%	59%	50%
Throw	64%	45%	50%
Change Water	50%	36%	50%
Filter	42%	45%	25%
Pour	64%	68%	100%
Mosquito Nets	68%	64%	100%

Remove larvae	4%	9%	50%
Good ventilation	14%	50%	25%
Buried	55%	14%	50%
Clean environment	50%	28%	50%
Spray	0%	32%	25%

Knowledge of Balanced diet			
	KKS	HY	MKP
Carbohydrates	73%	75%	61%
Protein	82%	75%	61%
Vitamins and minerals	82%	75%	72%

Taking AN care			
	KKS	HY	MKP
OG	55%	20%	17%
Midwives	45%	50%	45%
TBA	36%	60%	39%

Knowledge about Prevention of Hypertension			
	KKS	HY	MKP
Diet	93%	62%	50%

Regular Exercise	13%	4%	0%
Avoidance of alcohol drinking and smoking	6.6%	9.5%	0%

Comments		
Village	MC	HE
KKS	- Once a week - Once a month - Twice a month	- HE about healthy lifestyle - To give HE about seasonal diseases eg. DHF in rainy season
HY	- More Mobile clinic days - To give injection	- HE aboutSanitary laterine - Safe water - Cancer - GE - Organic benifits - More HE days
MKP	- More Mobile clinic days - To give injection	-